

令和3年度 第1回 高山市総合計画審議会 会議録（要旨）

日 時：令和4年3月14日（月） 13時30分～15時40分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市総合計画審議会委員 23名（オンライン出席9名を含む）

（欠席者7名） ※別紙名簿のとおり

高山市企画部長、企画課長、企画課係長、企画課担当、雇用・産業創出課係長

会議内容（次第）

1. 開会

市あいさつ（田谷企画部長）

会長あいさつ（堀会長）

3. 議事（議長：堀会長）

(1) 地方創生交付金事業の令和2年度評価・検証及び令和3年度取組状況について

資料に基づき事務局が説明

桑谷委員

- ・ 村半（若者等活動事務所）の利用について、高校生の利用が多いとのことだが、どこの高校が多い等の傾向はどうなっているか。

清水企画課長

- ・ 下校途中の利用のしやすさから、斐太高校の生徒の利用が多いが、他の高校や小・中学生の利用も増えてきている。また、当初は個人での利用がほとんどであったが、グループ利用や高校を卒業した大学生等の利用など、利用者の幅が広がってきているという印象がある。

桑谷委員

- ・ 最初は高校生が利用するにはハードルが高いのではないかと思ったが、グループ利用などいい使われ方をしている。このような利用を若者に浸透させていくようにしてもらいたい。

下山委員

- ・ 村半を使わせてもらい、駐車場に課題があると感じた。図書館の駐車場が近いのか。

清水企画課長

- ・ 近隣の市営駐車場として、弥生橋駐車場や、図書館の前の空町駐車場がある。少し歩いていただく必要はあるが、村半の利用の際には両駐車場の料金は無料化処理を行っている。

岩塚委員

- ・ インキュベーション推進事業に関して、16名の方が起業され、素晴らしい成果と捉えている。起業は子どもに夢を与えると考えているが、16名の起業がどのような職種となっているか、内訳を教えてください。

柚村雇用・産業創出課係長

- ・ 起業家16名の方は、生活関連の業種や飲食業が多い。生活関連ではヨガやネイルサロンなど家事や子育てを行いながらできるような職種が最近増えていると感じる。

議長（堀会長）

- ・ 商工会議所で起業セミナーを開催しているが、多くの方が受講されている。生活関連について、女性の起業が増えている印象がある。男性については、飲食の起業が多い。

(1)について了承

(2)SDGs（持続可能な開発目標）の取組について

資料に基づき事務局が説明

大野委員

- ・ この取組みについて、市民への周知はどのように行っているのか。

清水企画課長

- ・ SDG s という言葉は徐々に広がっていると感じている。市の取組みは本年度8月に広報たかやまで特集を行ったほか、インスタグラムやフェイスブックなどのSNSでの情報発信などを行い、市民の「気づき」がSDG s活動につながるよう取り組んでいる。現在小・中学生などに向けたリーフレットの作成、次年度には学校における教材等の作成等を考えている。

田谷企画部長

- ・ SDG s は全く新しいものという考えではなく、これまで培ってきた歴史や産業をSDG sを通じて再認識する、より良くする、また持続していくといったものと捉えている。足元をしっかりと固めつつ、様々な方々と取組みをすすめることにより、異年齢や異業種の協働や連携によって、新しいものが生み出されるといったことを期待している。

桑谷委員

- ・ SDG s の取組みは、学校でもすすめており、むしろ若年層から理解がすすんでいると思っている。「私なりのSDG s宣言」が1,000件近く寄せられているとのことだが、その内訳を教えてもらいたい。

清水企画課長

- ・ 個人からの宣言が約950件、団体が40件で合わせて1,000件弱となっている。年代別では、40・50代で57%を占め、若年層や70代以上が少ない状態である。項目別では、No. 12（つくる責任つかう責任）が500件と最も多くなっており、その他、No. 3（すべての人に健康と福祉を）、No. 7（エネルギーをみんなに、そしてクリーンに）、No. 11（住み続けられるまちづくりを）、No. 13（気候変動に具体的な対策を）が多い。

川原委員

- ・ 町内会連絡協議会としても、SDG sに取り組んでいこうということで、先般講師を招いて学習会をしたところである。SDG sが地域の重荷になってもいけないし、SDG sによって無理に行動を起こすということでもないと考えている。地域それぞれに応じて持続可能な行動や取組みを考えていくことが大切と思っている。

議長（堀会長）

- ・ 「飛騨高山SDGsパートナーシップセンター」とあるが、場所はどこに立ち上げる予定か。また企画課ですすめていくのか。

清水企画課長

- ・ センターとあるが、施設整備のようなハードではなく、協議会的なイメージである。現在委員の選考をすすめており、来年度早々に立ち上げを行う予定である。現在、企画課が関わっているが、来年度の体制整備に向けて準備をすすめているところである。

長瀬委員

- ・ 経済、社会、環境の取組みが示されているが、一つ足りないと思っている。災害に強いまちづくりという視点を入れてほしい。No. 11（住み続けられるまちづくりを）において、安全安心や防災に力を入れることによって、No. 4（質の高い教育をみんなに）の教育にもつながってくる重要な視点である。

田谷企画部長

- ・ 重要な視点であり、今後立ち上げるパートナーシップセンターの中でも、検討してまいりたい。

唐谷委員

- ・ カーボンニュートラルに向けた取組みの一環として、山の若返りに取り組んでいる。山林の高齢級化によって、二酸化炭素の吸収率が下がってきているが、主伐後の市の再生林の比率は12%と他市と比較しても低い。これは、造林していく経費に対して、収益が出ないためであり、植えるという意欲が出ない状況にある。
- ・ 様々な補助制度を活用して、山の若返りを図り、山を守り、自然を守る取組みをすすめていきたい。

谷口委員

- ・ 経済の取組みの中に、No. 8（働きがいも経済成長も）働く環境整備（リーセントワーク）の取組みを入れてほしい。
- ・ 経済にNo. 2（飢餓をゼロに）があるが、飢餓はNo. 1（貧困をなくそう）の貧困が前提となるはずが、それが記されていないことがわかりにくい。なぜ飢餓をなくそうということが入っているのか、市民啓発の際にはわかるようにしてほしい。

清水企画課長

- ・ 委員がおっしゃるように、1つの取組みがSDGsでは様々なゴールにつながっている。様々なつながりがあるということを意識していただくことも大切であり、今後わかりやすい周知に努めていく。

(2)について了承

～換気のため休憩～

(3)コロナ禍を踏まえた飛騨高山の持続可能なまちづくりについて

資料に基づき事務局が説明

桑谷委員

- ・ 小・中学生の感染が増加している中、当初は心配していたが、若年層のハラスメントは発生していない。例え陽性になったとしても普通に生活が送れていることに感謝する。

大野委員

- ・ 観光客の動向を見ると、やはり来訪者は少ない状況にある。市民も何か目標を失った感じがして、元気がないように見える。
- ・ まちに元気がないと、商品も発注せず、消費も滞るなど元気がなくなり、様々な物事を考えて行動していく力が失われているように感じる。何か市民が元気になる方法がないものか、皆さんのお知恵をいただきながら考えていきたい。

唐谷委員

- ・ 最新技術の導入促進に関し、大学と企業との共同開発により、木材をチップ化し溶液を抽出したものを、融雪剤として散布する研究を行っている聞いた。市としても積極的に導入してみてはどうか。
- ・ ペレットストーブの導入について、市で使用するペレットを市外から購入している。市内には豊富な森林資源があるため、市としても市内でのペレット生産について、後押しするなど前向きに考えていただきたい。

田谷企画部長

- ・ 融雪剤の件については、今後関係部局にも共有しながら研究してまいりたい。
- ・ ペレットについては、事業者の事情等もあるが、地産地消にしていきたいところ
に変わりはないため、市も改善に向けて努力していく。

仲委員

- ・ 担い手不足などにより、休耕田が増加していると感じる。その結果として景観が
悪くなり、観光の魅力が下がっているように思う。
- ・ 若い方が農業の魅力などを知らずに、離農していくことが原因とも考える。
- ・ 地域のコミュニティの中で、やる気がある人が集まり、新しい取組みを行うなど、
地域の集まりや小規模な農業を大切にできるようなしくみを市としても考えて
もらいたい。

鴻巣委員

- ・ 休耕田が増加する理由の一つとして、稲作が商売として成り立たないという課題
がある。
- ・ 例えば、茶碗一杯のご飯が今は20円前後だが、これを35円とすれば小さな農家で
あっても収支が均衡し、持続していくことができる。
- ・ また高齢化もあり、畦畔の草刈りもできない農家も多い。会社として農業を行っ
ている人たちに草刈りを代わりに行うことで、商売にしてもらえないかという提
案を行っているところである。

議長（堀会長）

- ・ 農業施策は単価を上げれば売れなくなるし、難しい課題が多い。

田谷企画部長

- ・ 農業施策に関しては、今年度非農家への農地利用の緩和を行ったところ。
- ・ 別に働きながら農業を行いたい人や移住者が農業を行うことができるよう、積極
的に取り組んでいきたいと考えている。

川原委員

- ・ 雇用の関係で、今のコロナ禍にあって、農業・林業・畜産業、サービス業を含め、
業種による求人の状況などを教えてもらいたい。
- ・ 子どもたちの新型コロナウイルスの感染状況がどのようになっているかを教え
てもらいたい。

清水企画課長

- ・ 現在資料を持ち合わせておらず、提供できるものについては、個別に対応させていただきたい。

桑谷委員

- ・ 農産物の流通という観点から、農業施策等に関して流通事業者へは一切協力等を依頼されていない、そういったところは少し考えていただきたい。生産だけでなく、流通も含めて連携して取り組んでいく必要がある。

田谷企画部長

- ・ 施策を推進するにあたり十分でないという指摘であるため、関係部局とも調整をしてみたい。

(3)について了承

(4)令和4年度予算（案）について

資料に基づき事務局が説明

蓑谷委員

- ・ ペレットストーブについては、コストが高く、地産地消につながっていない。チップを利用したストーブに助成を行うなど時代に即して見直ししていく必要があるのではないか。

清水企画課長

- ・ 現在事業見直しとして、現状に即しているか確認して、随時見直しをすすめている。時代に即した制度となるよう継続して見直しを検討していく。

西委員

- ・ 薪ストーブの導入については補助が対象となるのか。

清水企画課長

- ・ 木質燃料を使用したものについて補助対象としている。

下山委員

- ・ 町内会集会施設の改修助成について、防災機能の強化の改修とあるが、防災倉庫は順次市で整備をしていくとなっている。災害がいつ発生するかわからないので、まちづくり協議会が独自で作っている地域もある。行政が行うもの、まち協が行うもの、どのようなすみ分けとなっているのか。

田谷企画部長

- ・ 町内会が保有する集会施設については、これまで新築した場合のみが助成対象となっていたが、一時避難など多くの人が集まる場所でもあり、段差解消、手すりの設置やバリアフリーのための改修などを行った場合にも助成の対象とすることとした。
- ・ 防災機能の根幹となる防災倉庫などは、まちづくり支援金なども含めて、行政でも整備をしていく必要がある。
- ・ 地域の実情に応じて、備蓄するためにもう少し部屋を大きくするなどの改修の場合にも助成できるよう拡大をしている。

議長（堀会長）

- ・ 行政経営の観点では、地区の公民館については市有施設となっているものについても、将来的には地域に譲渡等をして、その地域の公民館として活用していただく方針である。そのような施設の改修にも利用できる補助制度となるだろうと理解している。

村上委員

- ・ 壁や窓ガラスのより良いものへの住宅の改修についても補助やそういう制度があるという情報を教えてほしい。広告などで見かけても制度としてわかりにくいので、簡単な言葉でわかりやすく教えてもらえると良い。
- ・ 城山について、市の花や木が少なくなってしまった。元気を取り戻すという意味でも身近なところから取り組んでいくべきと考える。

議長（堀会長）

- ・ 行政だけでなく、まちづくり協議会やいろいろな団体が連携して取り組むと、協働のまちづくりという観点から良いと思う。

桑谷委員

- ・ ふるさと納税について、寄附なので集まらなかった場合には歳入や歳出などどのように調整を行うのか。

田谷企画部長

- ・ これまでは当初予算では最低限の額で計上し、寄附額が増加した場合にはその都度補正で対応してきた経緯がある。
- ・ 令和4年度予算においては20億円の寄附を想定しているが、まずは、お礼の品に係る経費に充当することとしている。また残りの寄附金は、令和5年度以降の事業に充てることができるよう基金への積立ての予算に計上しているため、寄附が集まらない場合でも、その他の歳出予算へは影響がないよう予算を計上している。

鴻巣委員

- ・ 例えば断熱効果が高い部材を使い、灯油などを使わなくてもよいといった住宅建築の場合に優先的に補助を行うなど、将来に向けて効果的な取組みに対する助成があっても良い。

田谷企画部長

- ・ 支援の方策として、助成もあるが、啓発などにより取組みを促進するという方法も重要である。何が効果的か検討してまいりたい。

谷口委員

- ・ UIJターンの補助対象年齢を45歳に引き上げたことについては評価している。
- ・ 働き方改革に関するセミナーとあり、資料3でも副業の促進の記載があるが、事業者側としては就業規則の改正や労働時間や健康管理の面などの課題があり、副業を認めてもらうには事業者の理解も必要である。市として積極的にこれを促進していくとなると事業者に向けた説明をするなど、慎重に取り組む必要がある。

清水企画課長

- ・ 指摘を踏まえて取り組むように担当部局へ伝える。

大野委員

- ・ 町内会防犯灯の改修等に対する助成とあるが、市内の夜は全体的に暗いと思う。照明の整備計画があっても良いのではないか。

田谷企画部長

- ・ ここ数年は町内会が行うLED化について助成を行ってきたところである。街路灯については、市のほか、町内など地域が設置しているものなど様々な形態があるが、そのあたりの整理も含めて、ご意見として参考とさせていただく。

(4)について了承

3. その他

議長（堀会長）

- ・ 参考として、今年度の市民アンケート結果をまとめていただいたものを配付している。市民の声が記載されていることから、委員各位もご一読をお願いする。

益川委員

- ・ 障がい者差別解消法の見直しがされ、合理的配慮について民間へも義務化された。行政は既に義務化されていたが、今回の見直しで民間へも法的に義務付けとなってくる。偏見や差別の解消につながるものと期待している。
- ・ 身体障がい者協会として、行事が減少する中で、今年度は小学校へ出向いて5年生の総合学習の時間に、交流する機会を得た。グループ発表などがあり、子どもの時から福祉について学ぶ機会があることを有難く思った。

4. 閉会

高山市総合計画審議会 委員名簿

任期:R2.6.1~R4.5.31

No.	団体等名称	役職等	氏名	出欠(3/14)
1	高山市観光連絡協議会	会長	堀 泰則	○
2	高山商工会議所	副会長	蓑谷 雅彦	○
3	高山市商店街振興組合連合会	副理事長	松葉 早百合	欠席
4	高山金融協会	会長	古瀬 博康	欠席
5	連合岐阜飛騨地域協議会	事務局長	谷口 寛子	○
6	高山市農業委員会	会長	鴻巣 明久	○
7	飛騨農業協同組合	代表理事組合長	谷口 壽夫	欠席
8	飛騨高山森林組合	代表理事組合長	唐谷 清司	○
9	社会福祉法人高山市社会福祉協議会	常務理事兼事務局長	小峠 賢次	○
10	高山市民生児童委員協議会	委員	研壁 勝利	欠席
11	特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会	理事長	岩塚 久案子	○
12	高山市連合長寿会	会長	中田 幸男	○
13	高山身体障害者福祉協会	理事	益田 美貴子	○
14	(一社)高山市医師会		加藤 早千代	○
15	高山市教育委員会	委員	桑谷 康弘	○
16	高山自動車短期大学	学長	坂井 歩	○
17	高山市社会教育委員会	委員	嶋田 喜美子	○
18	(一社)高山市文化協会	事務局長	関 善広	欠席
19	高山人権擁護委員協議会	委員	加藤 雅宏	○
20	高山市町内会連絡協議会	会長	川原 正巳	○
21	三枝の郷まちづくり協議会		下山 哲正	○
22	一之宮町まちづくり協議会	副会長	水口 啓子	欠席
23	(公社)高山青年会議所	理事長	小林 幸平	○
24	高山国道事務所	所長	栗山 健作	欠席
25	高山市快適環境づくり市民会議推進委員会	委員	村上 千恵	○
26	たかやま林業・建設業協同組合	専務理事	長瀬 雅彦	○
27	高山市景観町並保存会連合会	会長	大野 二郎	○
28	(一社)岐阜県建築士事務所協会	飛騨支部長	仲 康信	○
29	高山市消防団	団長	西 明浩	○
30	岐阜新聞・岐阜放送ひだ高山総局	総局長	森嶋 哲也	○